

挾間「忠魂碑」移設

坂本勝信

一、初めに

はさま郵便局交差点の一角、龍祥寺境内の草むらにあった「忠魂碑」がなくなつて跡地がコンクリートの丘陵となっている。

戦後80年、昭和100年の一つの節目の年に当たり戦没者慰霊の忠魂碑について廃棄されたのか気にかかり調べてみた。

碑は元の場所から県道51号線を赤野方向に約200メートル上った東側、挾間商工会隣接の由布市駐車場広場に移設されていた。

二、移設の経緯

戦没者を慰霊する忠魂碑・慰霊碑は全国で約1万7千基あるといわれる。年を経て、そのうちひび割れや倒壊の危険がある等管理状態が「不良」または「やや不良」の基が780基ある（令和4年8月14日付産経新聞）といわれている。当忠魂碑も「土台部分の亀裂や傾きが生じているなど倒壊のおそれや地震等による倒壊のおそれやそれに伴う二次災害の危険性もあるため、解体後、移設を行う」必要があると、令和4年11月30日の由布市議会に上程された。また移設に伴う経費も同年12月13日市議会に承認され、由布市赤野の(株)ダイユウ建設により、令和5年4月上旬から約2ヶ月

かけて移設された。移設は塔の基分と塔で新たに周りに柵が設置された。

三、忠魂碑

塔正面…「忠魂碑」と大書され、頭頂部に陸軍を表す五芒星、下部に海軍を表す錨が刻されている。

塔左面…昭和七年五月建之

塔右面…陸軍中将 郷田兼安 謹書

忠魂碑には以上の三面への文字が見られるのみで、碑の建立目的や誰がなどの補足説明事項は一切見られない。

由布市の事業として移設が実行されたが移設前は草刈りなどの実質的な管理を挾間地区遺族会が実施しています。遺族会とは戦後占領軍による統治が終わり、日本が独立を回復した昭和22年に組織化され同28年財団法人認可の太平洋戦争戦没者遺族の団体で碑が建立された当時はなかった組織です。

ちなみに挾間町谷小学校敷地内に「慰霊塔」があり、この塔には、日清戦争以降の戦役特に「昭和16年対米英戦争は遂に世界大戦を勃発し全支那大陸から仏印ビルマレー半島フィリピン南太平洋と全域にて奮戦して散華した109柱」の慰霊のため、当時の村長さん謹書の碑文入りで、昭和29年9月谷地区遺族会により建立されたもの、と明確に刻されています。

四、挾間忠魂碑設置場所の変遷

挾間町合併以前だったこの忠魂碑の設置についての資料は発見し得ませんでした。挾間町史にも記載はありません。以下のことは伝聞です。

昭和7年の建立場所は挾間小学校校庭だった。

挾間小学校は尋常小学校として昭和4年3月現在の場所に移転開校していますので納得できます。

昭和20年夏敗戦となり、碑は倒され土中に埋められた。

昭和32年に開園した挾間幼稚園が碑が埋められた跡地に建設が決まり、碑が掘り起こされたとのことです。掘り起こされた碑が龍祥寺の境内に再興されたそうで、時期は不明ですが、前掲の由布市の「碑の解体移設上程書」には「昭和28年に現挾間町挾間の龍祥寺敷地内に建立された忠魂碑」とあり幼稚園開園より5年前の時点となります。

ちなみに龍祥寺さん敷地内使用について借地料は当時の挾間村そして挾間町として今の由布市が負担していたそうです。

五、挾間町の戦没者

「挾間町誌」によれば町内の戦没者数は

挾間…113名

谷…112名

由布川…97名

石城川…98名

との記述があります。

また大分県護国神社の記録によれば、この碑の建立以前の現挾間町区域の明治大正時代の戦没者数は20名とのことです（日清戦争、日露戦争、シベリヤ出兵等の戦役）。

六、終わりに

戦後80年、それは平和が保たれた80年でもあり、その背景にはかつての国策に殉じて亡くなった多くの先人のことを忘れてはなりません。彼らをしのぶですが（縁）がとても大事なことでおもしろい。今回、危険だからと撤去破棄せずに、この忠魂碑を移設保存した地元行政に敬意を表するとともに未永い保存を期待します。願わくは30年50年先の市民がこの碑の意義が理解できる看板の設置を望むものです。